



平成 21 年 10 月 27 日
第 3 号

みちのく環境だより

環境省東北地方環境事務所 <http://tohoku.env.go.jp>

東北地域における環境問題の取組と東北地方環境事務所の活動内容を紹介しています。

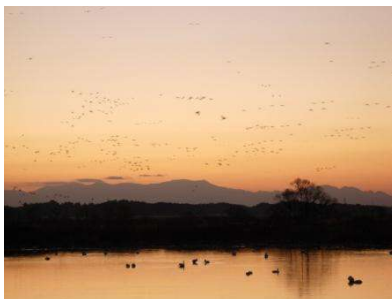
地域の取組紹介

～大崎市におけるラムサール条約を活かした地域づくり

宮城県北部に位置する大崎市は 2006 年 3 月に 1 市 6 町が合併して誕生した市で、市内にはラムサール条約湿地「蕪栗沼(かぶくりぬま)・周辺水田(しゅうへんすいでん)」(国指定鳥獣保護区)があり、昨年は「化女沼(けじょぬま)」も国指定鳥獣保護区指定と時を同じくしてラムサール条約湿地に登録され、2つのラムサール条約登録湿地を持つ市となりました。

「蕪栗沼・周辺水田」は、ガンカモ類の越冬地として国内最大級の規模を誇っており、特にマガンは 10 万羽が飛来するなど重要な地域となっています。

ここでは、地域住民、地元の環境 NPO、行政機関などが協働して、無農薬・無化学肥料栽培や、冬の水田に水を張る「ふゆみずたんぼ」などの環境にやさしい農業が実践され、また耕作者の同意を得て耕作終了地の湿地への復元の取組【保全・再生】や、沼の自然や生きものを活かした普及広報活動や環境教育などにより地域住民の意識・関心も高まっています【交流・学習】。



さらに地元 JA と首都圏生協を結んだ地域ブランドの開発と交流事業の継続、行政による環境共生型栽培に対する農家への交付金やガンカモ類による食害補償条例制度の実施、当地米を使った地酒の共同開発などの多様な仕組みづくりにより、地域産業・経済や地域の人々の生活とバランスのとれた保全が行われています【賢明な利用】。

当事務所も、蕪栗沼環境管理会を始め、各種協議会等に参加し、共に保全・活用に取り組んでいます。

このような取組によって、全国的に見てもラムサール条約の賢明な利用(湿地の生態系を維持しつつ、そこから得られる恵みを持続的に活用すること。)の最も成功している数少ない好例だと思います。

現在、韓国チャナム貯水池のある昌原市との姉妹湿地協定締結に先立ち民間団体による交流が始り、大崎市・昌原市の両市は、来年名古屋市で開催される COP10 の公式サイドイベントの中で調印式を行うことを目指しています。

～東北地域のまほろば事業(宮城県塩竈市地域)

塩竈市地域では、行政(塩竈市)と民間(塩釜市団地水産加工業協同組合)の協力で平成 18 年度に本モデル事業(魚のまち塩竈地域エネルギー好循環形成事業:総事業費約 1 億 3 千万円(うち環境省補助 2/3))により、塩釜市団地水産加工業協同組合(宮城県塩竈市)敷地内にバイオディーゼル燃料製造プラントを設置し、水産加工業から排出される廃食用油を高品質な軽油代替燃料(以下

「バイオディーゼル燃料」という。)に再生する取組を行っています。平成 19 年度は約 234,000 ㍓、20 年度は約 252,000 ㍓のバイオディーゼル燃料という。)に再生する取組を行っています。平成 19 年度は約 234,000 ㍓、20 年度は約 252,000 ㍓のバイオディーゼル燃料を生産しています。

この再生したバイオディーゼル燃料を上記協同組合組合員の所有車、市公用車、ごみ収集車両、運輸関連車両等が利用することにより、平成 19 年度は 530 トン、20 年度は 586 トンの CO2 削減が達成されました。



本事業は、「水産練り製品生産量日本一」という塩竈市の特性を活かして、揚げカマボコ工場等から排出される廃食用油を回収し

環境省東北地方環境事務所

〒980-0014

仙台市青葉区本町 3 - 2 - 2 3
仙台合同庁舎

電話:022 (722) 2870 (代表)

FAX:022 (722) 2872

電子メール: REO-TOHOKU@env.go.jp
(リサイクル、有害廃棄物輸出入関係、地球温暖化対策、石綿健康被害等に関すること)

電子メール: TOHOKU@env.go.jp
(国立公園、エコツーリズム、自然再生、野生生物、外来生物等に関すること)

て、燃料の製造・販売までを一貫して行うという、水産加工業のまちならではの事業スタイルです。

平成 19 年度のストップ温暖化一村一品大作戦全国大会では、この事業が評価され、同協働組合が特別賞（バイオマス賞）を受賞しました。本年 7 月には仙台市における科学体験イベント「学都「仙台・宮城」サイエンスデイ」の中で、塩竈市及び同組合は共同でバイオディーゼル燃料作りの体験教室を開き、小中学生や保護者にバイオディーゼル燃料を知ってもらうなど、普及啓発活動にも一層力を入れていきます。

同組合では、燃料製造に要する薬品価格の上昇と軽油価格が落ち着き、バイオディーゼル燃料の販売量が減少傾向にあること等、経営環境が厳しいことから、当面、企業訪問等による一層の販路の拡大と、バイオディーゼル燃料を精製する際に発生する副産物（グリセリン）の有効活用に取り組みたいとしています。

また、様々な課題がありますが、塩竈市と同組合では、BDF 事業の推進が魚のまち塩竈から発信する温暖化対策のための地域循環型社会のモデルとなるべく、産・官・学そして地域住民との連携を図りながら安定的な事業運営を目指していききたいとしています。

～9/26「広瀬川1万人プロジェクト」& 10/4「蒲生干潟クリーンアップ運動」

9月26日（土）に宮城県仙台市、名取市の広瀬川で、「広瀬川1万人プロジェクト」の一斉清掃活動が実施されました。一斉清掃は、広瀬川の自然環境を守り、多くの市民が親しめる川をつくるという趣旨に賛同する34企業・団体と仙台市で構成する実行委員会の主催で春と秋に開催されており、今回が9回目となります。当事務所は、このうち、仙台市富田会場に参加しました。当日は、上流から河口までの全13会場で、市民やボランティア団体等の1,414人

が、ごみ袋約700袋のごみが回収されました。

また、10月4日（日）には、仙台市の蒲生干潟で、「蒲生干潟クリーンアップ運動」が実施され、干潟に散乱するごみの調査・回収が行われました。クリーンアップ運動は、「国際ビーチクリーンアップ運動」を実施する集い、仙台まち美化ネットワーク、仙台市の主催により実施され、当事務所も活動に参加しました。当日は、365人の参加者が約300キロのごみを回収しました。

これからも、このような活動を通じ、ごみのないきれいな環境を守る取組が広がることを期待しています。



今月のトピックス

- ～白神山地世界遺産センター入館者 30 万人達成
- ～八幡平ビジターセンター入館者 50 万人達成

白神山地世界遺産センター（藤里館）で去る 10 月 3 日に、オープン 11 年目で入館者数 30 万人を達成しました。

めでたく 30 万人目となったのは群馬県桐生市の渡辺典子さん（会社員）で、当事務所小林所長より認定書を手渡し、同センター活動協議会会長の石岡藤里町長からペア宿泊券等の記念品が送呈されました。

同センターは、世界自然遺産白神山地の保全管理、自然環境に関する調査研究、環境教育などの拠点施設として平成 10 年に秋田県山本郡藤里町に設置したものです。



30 万人達成者と

また、十和田八幡平国立公園八幡平地域の自然の紹介、自然とのふれあい活動の拠点施設である八幡平ビジターセンターにおいても、平成 14 年にリニューアルオープンして以降来館者数 50 万人を達成したことから、10 月 21 日に来館者数 50 万人達成記念セレモニーを行いました。セレモニーでは、小中学校の環境学習などの活動状況を報告したほか、地元鹿角市出身者によるフルーツ演奏が行われました。

今後も、ビジターセンター等の施設を拠点に、豊かな自然とふれあう機会を、より多く作っていきたいと考えています。

職場紹介

～廃棄物・リサイクル対策課

皆様、大変お世話になっております。廃棄物・リサイクル対策課長の倉谷です。

私ども廃棄物・リサイクル対策課では、3R 推進地方大会の開催による市民向けの普及啓発、交付金・補助金等による市町村等が行うリサイクル・廃棄物処理の支援、事業者が行うリサイクルや廃棄物の輸出入についての指導・管理など、循環型社会の形成に向けた各主体の取組を推進するための業務を、私を含め 7 人の職員で行っております。

また、公害規制・化学物質対策や、環境アセスメント等に関連する地域の環境調査について、環境対策課とも連携して担当しています。

今日の循環型社会の課題は、身近なごみ問題から漂着ごみや温暖化など地球規模の問題へと広がりを見せ、低炭素社会・自然共生社会に向けた取組とも切り離すことができません。地域の様々な資源（人材・もの・エネルギー）を活かし、循環型社会づくりを進めるためには、地方公共団体や地域の企業・団体、住民の皆

様の協力を頂き、その取組を地域の枠を超えて広げていくことが重要と考えています。

職員一同、このような連携の強化に向けて取り組んでいきたいと考えておりますので、皆様からの関連する様々な情報やご提案、疑問点など、どうぞ遠慮なくお寄せください。



東北地方環境事務所の業務予定(平成 21 年 11 月、12 月)

月日	時間	業務予定内容		場所等	担当課等
11.1	13:30 ~ 16:00	地域と企業の連携に関するセミナー	基調講演、地域と企業の連携活動の紹介、参加者の意見交換。(主催: EPO 東北、山形県環境保全協議会)	山形国際交流プラザ(山形市)	環境対策課(片岡)
11.1 及び 11.8	10:30 ~ 11:30	「五色沼わくわく散歩」	五色沼周辺の植物や景観を楽しむ	福島県北塩原村	裏磐梯自然保護官事務所(福原)
11.6	10:00 ~ 16:30	平成 21 年度 環境カウンセラー研修(東北地区) ~ 水きらめくふくしま ~	環境カウンセラーとして登録を受けている者を対象に、環境カウンセラーとしての資質、能力の向上を図る等を目的とする。	ピックアイ(郡山市)	環境対策課(片岡)
11.7	9:30 ~ 16:00	ESD 東北フォーラム 2009in もりおか	・基調講演、ESD 先進地区より話題提供、事例発表	いわて県民情報交流センター「アイーナ」(盛岡市)	環境対策課(片岡)
11.8	9:30 ~ 12:00	地域循環型社会づくりシンポジウム(併催: いわて環境王国展)	循環型社会づくりに向け地域における優れた活動事例や先進的な取組事例の紹介等	いわて県民情報交流センター「アイーナ」(盛岡市)	廃棄物・リサイクル対策課(佐々木)
11.8	8:30 ~ 16:30	「自然観察会」	白神山地晩秋のブナを見る集い	秋田県藤里町	藤里自然保護官事務所(小松)
11.11	13:00 ~ 16:00	第 5 回きれいな水と美しい緑を取りもどす全国大会	功労者表彰、事例発表、講演(主催: 環境省、(社)日本の水をきれいにする会)	猪苗代湖体験交流館(福島県耶麻郡猪苗代町)	環境対策課(片岡)
11.13	19:00 ~ 21:00	第 1 回人と野生動植物の共生を考えるつどい	「鳥インフルエンザ感染の伝播と野鳥を考える」をテーマとした基調講演とパネルディスカッション(主催: 登米市・登米市環境市民会議、後援: 東北地方環境事務所)	登米市市役所南方庁舎(登米市)	野生生物課(多田)
11.14	9:00 ~ 15:00	「長靴トレッキング」	潮吹穴から浄土ヶ浜までの自然遊歩道のトレッキング。遊歩道途中に流れる沢を長靴でジャブジャブ渡ります。	宮古市自然歩道(潮吹穴 ~ 浄土ヶ浜)	宮古自然保護官事務所(平井)
11.17	13:30 ~ 17:00	平成 21 年度第 2 回不法投棄対策セミナー	不法投棄対策担当者の現場対応ノウハウの蓄積及び現場対応能力の向上を図るためのセミナー	岩手県庁「講堂」(盛岡市)	廃棄物・リサイクル対策課(前田)
11.20	10:00 ~ 16:00	オフセットクレジット(J-VAR)全国説明会	制度概要の説明、クレジット活用事例と市場動向、申請書書き方講座、個別相談会(主催: 環境省、林野庁)	仙台市民会館(仙台市)	環境対策課(向田)
11.22	9:00 ~ 12:00	「ぶらっと観察会」	木々の葉も落ち小鳥たちをゆっくり観察	鶴岡市羽黒山	羽黒自然保護官事務所(佐藤)

月日	時間	業務予定内容		場所等	担当課等
11.23	10:00～ 16:00	第3回八郎湖の再生を 考える集い	体験イベント、試食、活動発表、講演等	八郎潟町農村改善セ ンター(秋田県南秋田 郡八郎潟町)	環境対策課(片岡)
11.26	13:00～ 17:00	第6回ESCO事業ワー キンググループ	事例の情報提供、施設見学、フリーディス カッション(主催:東北地域エネルギー・温 暖化対策推進会議)	宮城県立がんセンタ ー(名取市)等	環境対策課(向田)
12.17 ～18	13:00～ 15:30	秋の不法投棄監視合 同スカイパトロール	産業廃棄物の不法投棄等を上空から監視 パトロール	花巻空港ヘリポート (花巻市)	廃棄物・リサイクル 対策課(前田)
11月 中		所内鳥インフルエンザ 研修	東北地方環境事務所版鳥インフルエンザ 対応マニュアルに基づく研修	東北管内で2箇所予 定	野生生物課(多田)

誌上写真展

当事務所以外の方からの投稿もお待ちしております。



黄金色の季節(西目屋村 母の沢林道)
(西目屋自然保護官事務所 檜垣 育子)



紅葉(秋田県乳頭温泉付近)
(鹿角自然保護官事務所 井手 正博)



宮城県蕪栗沼マガン
(仙台保護官事務所 鎌田和子)



磐梯朝日国立公園 檜原湖と磐梯山
(裏磐梯自然保護官事務所) 小長井崇大)

題字横の写真：紅葉真っ盛り！(青森県八甲田山地獄沼)
(十和田自然保護官事務所 七目木修一)